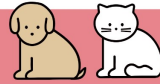


人も動物も幸せに



「あいまる さっぽろ」を視察

人とペット双方の福祉を目指す動物愛護管理センターが昨年11月、中央区南22条西15丁目にオープンしました。動物の適正飼育に関する普及啓発の拠点施設であり、保護収容動物の譲渡などを行います。市民が共に学び交流する場としても活用が期待されています。



お問い合わせ | TEL:011-736-6134
| | <https://aimaru-sapporo.com>

こじまゆみのプロフィール

- 昭和41年8月28日生まれ。札幌東高、札幌医科大学衛生短期大学看護学科卒業。札幌社会保険総合病院(現:JCHO札幌北辰病院)ほかで勤務
 - 平成19年、札幌市議会議員に初当選し、現在5期目。この間、厚生常任委員長、新型コロナウイルス感染症対策調査特別委員長、札幌市議会自民党議員会副会長、札幌・石狩地方議員連絡協議会会長など多くの役職を歴任
- 現在、札幌市議会厚生常任委員、大都市税財政制度・DX推進調査特別委員などを務める

「住みたい、学びたい、訪れたい、あつべつに。」の
実現に全力投球

札幌市議会議員

こじまゆみ

厚別区

You&Me
こじま ゆみ政務調査室

〒004-0053
札幌市厚別区厚別中央3条5丁目8-20
TEL:011-896-6633
FAX:011-896-6631



市議会第4回定例会
厚生委員会

感染症有事に向けた体制構築や 歯科口腔の健康維持への取り組みをたどす

感染症予防計画について

■ 検証報告の何を重視し 感染症予防計画を策定するのか

こじま 先日の厚生委員会で市から示された「新型コロナウイルス感染症の対応に係る検証報告書」について、報告をどのように捉え、どのような点を重視し、感染症予防計画を策定しているのか伺う。

理事者 報告書は今後の感染症対応にとって非常に重要かつ貴重なものと認識している。検証報告で捉えた課題等を今後の感染症有事の際の対応に活かすべく、関連計画等でも対応する。感染症予防計画策定では、検査体制、保健所体制等、有事の際の円滑な対応に欠かせない体制構築には数値目標を掲げ、実効性を確保することを特に重視している。

■ 有事における医療提供体制を いかに構築するか

こじま 新型コロナ対応の初動期において、市内で唯一の感染症病床を有する市立札幌病院で受け入れを開始したが、陽性者数の増加に伴って病床が不足し、市内医療機関に協力を求めた。当初は発熱外来医療機関も十分とは言いがたく、感染拡大期には受診できる医療機関が見つからないという声も届いた。今後、新興感染症等が流行した際に、どのように医療提供体制を確保していくのか伺う。

理事者 有事における医療提供体制については、病床確保や発熱外来の実施等、道が数値目標を設定する。医療提供体制の整備は札幌市としても大変重要と考えており、協定締結医療機関の確保に向け、道や関係団体と連携を進める。感染症の流行規模が感染症予防計画の想定を大きく超える場合の体制については、本計画および他の関連計画を踏まえて検討する。

■ 有事の迅速な対応に向けた 道との役割分担をどうするのか

こじま 医療提供体制の構築には特に迅速な対応が求められるため、道との連携の中で札幌市としても対応する必要がある。有事の際の医療提供体制の構築など必要となる場合は、札幌市が権限を持って進めるべき。有事に迅速な対応を行うため、医療提供体制構築について札幌市は、道とどのように役割分担して連携するのか伺う。

理事者 札幌市は近隣自治体の住民に対する医療提供においても重要な役割を担い、各自治体や道とも連携して体制を構築することが必要。有事の際の迅速な対応には、政令市においても柔軟に対応できる仕組みが必要。北海道感染症対策連携協議会において道との役割分担を整理し、国に対し必要な権限や財源について要望していく。

フッ化物洗口の本格実施 などの課題解決へ

次期札幌市生涯歯科口腔保健計画 での取り組み強化促す

健康寿命延伸と密接にかかわる歯や口腔の健康にとって重要な次期札幌市生涯歯科口腔保健計画をめぐり、以下の3点について市の取り組みをたどしました。

特に、フッ化物洗口については、わが自民党会派として、一日も早い本格実施を求めており、子どもたちの健康を守り、将来にわたって健康な歯を維持するためにも、最大限の努力を行うよう強く求めました。

- 要介護高齢者の摂食嚥下障害への対応や認知症高齢者に対する歯科医療などの介護現場の課題にどのように対応するのか
- 妊産婦歯科健診についても地域の歯科医療機関で受診できるよう見直しが必要。次期計画でどのように対応するのか

● わが会派が強く求めてきたフッ化物洗口の導入が次期計画案に盛り込まれているが、普及・拡大には市民の理解が不可欠。今後、市民に対しどのように情報発信していくのか



「新たなまちづくり」の実現へ全力!

札幌市議会最大会派自由民主党議員会では、コロナ禍の3年間を乗り越え、再び動き出した札幌の社会経済活動をさらに加速させるために、様々な市政課題に全力で取り組んできました。さらに令和5年12月には、東京で各省庁に対して、脱炭素社会の実現に向けた支援や北海道新幹線の早期完成、多様な教育環境の整備などについて中央要請を実施しました。子どもから高齢者まで、あらゆる世代が安全・安心、快適に暮らせる「新たなまちづくり」の実現に向けて、所属議員26人が一丸となって活動を進めていきます。



12月14日、自民党本部で中央省庁や道内選出国會議員に要望活動を実施



「物価高から市民生活を守る」対策

物価高騰が市民生活に大きな影響を及ぼしていることを受け、賃金上昇が物価高に追いついていない国民の負担緩和及びテフレ脱却のための施策や物価高に切実に苦しんでいる低所得者への支援を講じていきます。また、事業者は、中小企業を中心に厳しい経営状況が続いていることから、地域や業界の実情を踏まえた事業者向けの対応や支援にも目を向け、具体的な対策を講じていきます。



【追加対策の内容】

- ①住民税非課税世帯に対し1世帯当たり7万円支給
- ②小中・特別支援学校への学校給食費の支援
- ③プレミアム付き商品券の新規発行

市立幼稚園・学校にエアコンを整備

記録的な猛暑により学校現場での暑さ対策が急務であるため、自由民主党議員会は令和5年9月、市に対し施設整備に関する緊急要望書の提出、国に対し財源確保に向けた要望活動を行いました。

市は、今年の夏までに全ての学校の保健室にエアコンを設置するとともに、2027年度末までに全ての市立幼稚園・学校の普通教室にエアコンを設置しました。さらに、小学校の暑さ対策を踏まえた長期休業期間の考え方についても指摘し、中学校と同様、夏休み30日間、冬休み20日間と決定しました。保育所、認定こども園、児童会館等に対しても冷房設備補助金を交付します。



丘珠空港周辺のまちづくりを推進

令和5年8月、自由民主党議員会からの強い要望を踏まえ、市は丘珠空港の「滑走路延伸の2030年供用開始」を表明し、国への要望を行いました。

滑走路延伸の2030年供用開始という年次目標に合わせ、旅客数の増加が見込まれる空港ターミナルビルの拡張、空港周辺の賑わいの創出や周辺の土地利用の在り方など、丘珠空港周辺のまちづくりについて、検討を加速させていきます。さらに、経済活性化や防災機能強化などの面で大きな可能性を持つ丘珠空港の利活用を全力で進めていきます。



除排雪の強化、予算確保に全力

市は令和5年度の除雪費当初予算額を前年度比21%増の過去最高261億5700万円を確保しました。自由民主党議員会では安全・安心な冬の生活に欠かせない除排雪の強化を最重点政策に位置付け、予算確保に向けた取り組みを続けてきました。大雪により都市機能がまひした令和3年度のような事態になれば追加対策の補正予算が必要となるため、降雪量などの推移を見ながら適切に対応していきます。



【除雪事業の主なポイント】

- ①幹線道路の排雪1394km (前年度比14km)
- ②雪堆積場82カ所 (同2カ所増)
- ③パートナーシップ排雪の地域負担額を据え置き
- ④ICT活用による効率化・省力化の推進

